

日高・胆振・噴火湾沿岸の古津波

平川一臣*(愛工大, 北大)

1. はじめに

発表者は2011年3月11日の東北地方太平洋沖津波によって津波堆積物研究の基本的な立脚点の再認識を迫られた。つまり3.11津波は北海道太平洋沿岸から三陸沿岸全域、福島～房総まで広域に追跡して初めて全貌を理解できる。過去の超巨大津波についても同様の広域的観点が肝心である(図1)。

今回の報告は日高・胆振・内浦(噴火)湾岸の津波堆積物(図2)に基づく日本海溝・三陸沖北部～日高沖(図3)の津波波源・震源検討の意義に関するものである。

2. 論点

- 超巨大津波(17C.1611 慶長、12/13C.、896 貞観、3/4C.など)は当該沿岸域でも高遡上した。
- 12/13C.津波の波源は三陸沖北部を震央とした可能性がある。
- 超巨大津波間に“ひとまわり小ぶり”な地震・津波がとくに日高沿岸南部に堆積物として記録されている。
- 1640 駒ヶ岳火山津波は、先行する水蒸気噴火物質(海面に浮遊)とともに特異な高遡上を示す。

	1	2	3	4	5	6	7	8
1896 安政?	1896明治?	1896明治?	1896明治?	—	1640駒ヶ岳	1640駒ヶ岳	江戸期?	1640駒ヶ岳
1896安政?	1896安政?	1896安政?	1896安政?	—	1640駒ヶ岳	1640駒ヶ岳	(宝暦?安政?)	1640駒ヶ岳
1763宝暦?	1763宝暦?	1763宝暦?	1763宝暦?	v(Ta-b)	17C.(1611慶長)	17C.(1611慶長)	17C.(1611慶長)	v(Us-b)
1611慶長*	17C.(1611慶長)*	17C.(1611慶長)*	17C.(1611慶長)*	17C.(1611慶長)	17C.(1611慶長)	17C.(1611慶長)	17C.(1611慶長)	17C.(1611慶長)
(17C.500)	17C.(1611慶長)*	17C.(1611慶長)*	17C.(1611慶長)*	17C.(1611慶長)	17C.(1611慶長)	17C.(1611慶長)	17C.(1611慶長)	17C.(1611慶長)
牛世15C?	牛世13-15C.*	牛世15C?*	牛世15C?*	—	—	—	中世15C?*	—
牛世14C?*	中世	中世	中世	—	—	—	中世	—
12-13C.*	12/13C.	12/13C.?	12/13C.?	12/13C.	12/13C.▲	12/13C.	12/13C.?	12/13C.?
v(B-Tm)	v(B-Tm)	v(B-Tm)	v(B-Tm)	v(B-Tm)	v(B-Tm)	v(B-Tm)	v(B-Tm)	v(B-Tm)
869貞観*	869貞観*	869貞観*	869貞観*	869貞観*	869貞観*	869貞観*	869貞観*	869貞観*
3/4C.	3/4C.	3/4C.	3/4C.	3/4C.	3/4C.	3/4C.	3/4C.	3/4C.?
AD/BC	AD/BC	AD/BC	AD/BC	AD/BC	AD/BC	AD/BC	AD/BC	AD/BC
2.5 ka	2.5 ka	2.5 ka	2.5 ka	2.5 ka	2.5 ka	2.5 ka	2.5 ka	2.5 ka
3.0 ka?	3.0 ka?	3.0 ka?	3.0 ka?	3.0 ka?	3.0 ka?	3.0 ka?	3.0 ka?	3.0 ka?
3.5 ka?	3.5 ka?	3.5 ka?	3.5 ka?	3.5 ka?	3.5 ka?	3.5 ka?	3.5 ka?	3.5 ka?
岩層なだけ津波	岩層なだけ津波	岩層なだけ津波	岩層なだけ津波	岩層なだけ津波	岩層なだけ津波	岩層なだけ津波	岩層なだけ津波	岩層なだけ津波

図2 日高・胆振・噴火湾沿岸の津波堆積物
v テフラ、▲ 土器片、* C-14

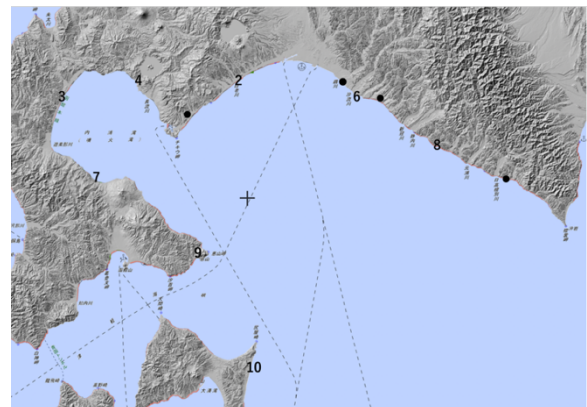


図3 主な調査地点

- は既存の研究:Nakanishi et.al, 2020, 中西・岡村, 2019 高清水ほか, 2007, 2017 岡村ほか, 2012,

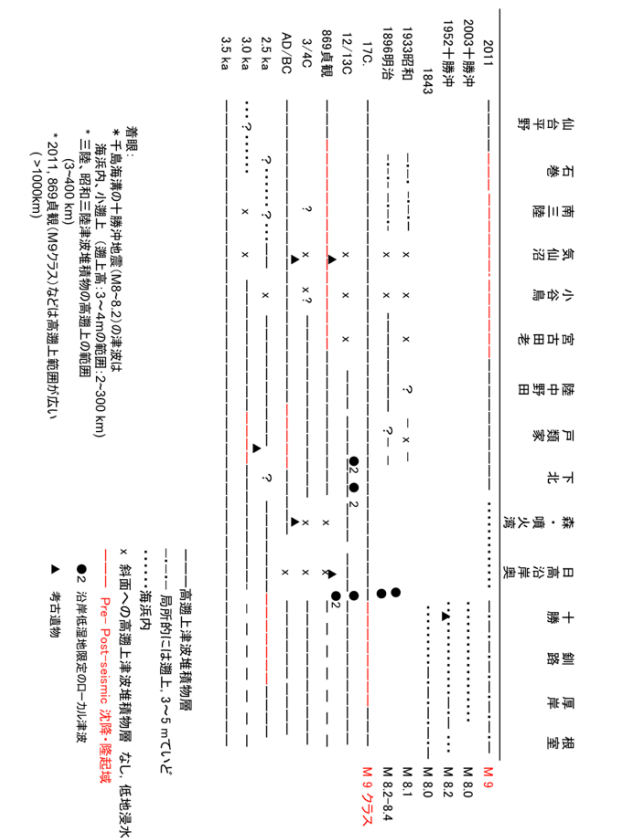


図1 千島海溝・日本海溝の津波堆積物時空分布